



認定特定非営利活動法人

日本がん登録協議会

JACR Japanese Association of Cancer Registries

NEWSLETTER

年2回
発行

JACR ニュースレター

February.2020 No.48

認定NPO法人になりました!

2005年
保健文化賞
受賞

2016年
朝日がん大賞
受賞

日本がん登録協議会第28回学術集会報告

高橋 将人 第28回日本がん登録協議会学術集会長

国立病院機構北海道がんセンター



日本がん登録協議会第28回学術集会を2019年6月19日(水)から6月21日(金)の日程で、北海道立道民活動センターかでの2.7で開催させていただきました。開催の数日前より、「もし天候が大荒れになり、札幌に来られない人がたくさん出たらどうでしょうか?」とか、「運営上とんでもない事が起こったらどうでしょうか?」とか、皆さんは笑うかもしれませんが、学会を運営する者としては気が気でなかったというのが正直な気持ちでした。雨も若干は降りましたが、幸い開催に支障となるような事態にはならず、参加者は300名を超える数となりました。まことにありがとうございました。

学会は実務者研修会から始まり、「国民へのがん登録情報の提供」、「がん登録データの研究利用」、「行政に生かすがん登録」、「都道府県/院内がん登録室の活動」の4つのセッションを実施させていただきました。各セッションは基調講演とパネリストの講演というスタイルで行ってみたいでしたがいかがでしたでしょうか?またポスター発表もたくさんの方に参加していただき、face to faceで討議できることからこれも口演とはまた違う趣でとても良かったと思います。特別講演にはテレビでもご活躍の山口真由様に登壇していただきました。彼女の財務省時代の話などとても興味深いものでした。全員懇親会はお金をあまりかけずに、でも実は力を入れた所でした。「えー、あの先生があんな事を!!」と、みんなが笑い、そして踊り、とても楽しく交流が深まったと思います。

今回の学会のテーマは「Passion for Cancer Registries!」とさせていただきました。この学術集会は病院関係者だけでなく行政の担当者も含めて全国の「がん登録」に係わる全ての方々が集まる唯一の機会です。がん罹患率や死亡率を減少させる有効な方法を計画するためには、その基礎データである「がん登録」は極めて重要です。基礎になる「がん登録」が、正確で利用しやすい方法となるように、必要なものは確実に保持し、改変すべき点は改変していくという姿勢は常に国民から

求められています。「がん登録」の実行性や問題点などを真摯に討議し、その重要性および発展性について情報交換して欲しいと考えこのテーマとしました。その意味ではうまくいったのではないかと自負しております。



受賞された方々

この学術集会では理事の先生方のご協力と厳正な審査を行い、優秀演題の表彰を行いました。最優秀口演賞に大阪大学の査凌様、最優秀ポスター賞に福島医科大学の河村英恭様、優秀ポスター賞に大阪大学の池田さやか様、がん登録室紹介ポスター賞(全国)に滋賀県立総合病院の柳香里様、がん登録室紹介ポスター賞(院内)に四国がんセンターの大平由津子様の5名を表彰させていただきました。受賞された方々本当におめでとうございます。

学会中いろいろと不手際があったと思います。北海道の爽やかな気候に免じてお許しいただきたく存じます。たくさんの方々にお世話になりました。本当にありがとうございました!



がん登録担当者研修会報告



杉山 裕美 JACR理事

放射線影響研究所

今年の研修会は1. がん登録に役立つ病理の基礎知識と、2. がん登録の精度管理の二つのパートに分けて開催しました。前半、寺本典弘先生(四国がんセンター)は、「がん概論と病理報告書」として、そもそもがんとはどういう疾病なのかの講義から始まり、病理診断の概要と報告書の読み方をご教示いただきました。海崎泰治先生(福井県立病院)は、腫瘍の組織像から組織型をどう分類するのかという病理学的考え方の基本から、国際疾病分類腫瘍学(ICD-O)における形態分類、コーディングルールをご教示いただきました。どちらも実務者が悩みがちな腫瘍について、具体例をあげて現実に則したコーディングをご講演いただきました。

後半は、奥山絢子先生(国立がん研究センター)に、質の良い院内がん登録データとは、「がんの罹患、診療、転記等の情報を的確に把握でき、治療の結果等を評価し、他施設と比較できること、がん医療の質の向上につながるデータであること」として、どのような変数を用いて、どのような集計をしていくことで確認できるのか、具体的な集計表やグラフを交えてご講演いただきました。私は、2018年12月に国際がん研究機関(International Agency for Research on Cancer, IARC)で行われたGlobal Initiative for Cancer Registry Development (GICR)による住民ベースのがん登録データ精度管理研修会で得た知識と教材をもとに、完全性、

比較可能性、妥当性、即時性の4つの柱について説明しました。

院内がん登録も住民ベースのがん登録も、法制化と標準的運用方法の確立により、データベース内での論理チェックは随分楽になりました。データの精度は確かに向上していますが、今後がん医療向上のために十分活用できるデータであるか、常にモニタリングしていく必要があります。これらの講演が皆様のがん登録データ精度管理にお役にたつよう願っています。



教育研修委員会メンバー

関 連 学 会 一 覧

2020(令和2年)

日程	学会名	開催場所
5月15日(金) ~ 16日(土)	がん予防学術大会2020米子 演題登録期間:1/20(月)~3/20(金)※2019年12月末時点での情報です。	鳥取県 米子コンベンションセンター
6月4日(木) ~ 6日(土)	日本がん登録協議会第29回学術集会 	栃木県 栃木県総合文化センター
10月1日(木) ~ 3日(土)	第79回日本癌学会学術総会	広島県 リーガロイヤルホテル広島・メルパルク広島・広島県立総合体育館
10月20日(火) ~ 22日(木)	第79回日本公衆衛生学会総会	京都府 京都市勧業館みやこめっせ
10月22日(木) ~ 24日(土)	第58回日本癌治療学会学術集会	京都府 国立京都国際会館・グランドプリンスホテル京都
10月12日(月) ~ 15日(木)	国際がん登録協議会学術集会(IACR)	ニューカレドニア ヌメア

日本がん登録協議会学術集会に参加して



佐賀県健康増進課 熊谷 侑一郎

佐賀県健康福祉部健康増進課がん撲滅特別対策室

私は佐賀県庁の行政職員として行政の立場から日本がん登録協議会学術集会に参加しました。

私自身は今回初めて学術集会に参加したのですが、当県としては、近年、県拠点病院である佐賀大学と共同で演題を出し、毎年参加しています。その大きな契機となったのが、平成22年のICTを活用した地域がん登録促進プランから始まった佐賀大学との連携です。佐賀大学とは①医療従事者向けのがん登録研修会の開催、②がん登録実務者の基礎知識の維持とスキルアップのためのeラーニングサイトの運営、③市町のがん検診データの可視化等の研究活動について連携して実施しています。

研修会は、佐賀県と佐賀大学との共催で運営していますが、全国がん登録の開始に先立ち、平成26年度から研修会をはじめ、令和元年度は研修会を4回開催しました。研修内容は、研修後のアンケートや日頃寄せられる意見を基に、講師の先生や佐賀大学の院内がん登録室の職員を中心にどのレベルの研修が適切か、優先的に行うべき内容は何かを検討し決定しています。研修会は、当初、佐賀県内の医療機関のみを対象としていましたが、県外の医療機関の方々からも参加したいという声が増え参りましたので、県外の医療機関の方も参加可とする事で、より多くの方に研修を受けていただけるようになり、九州・山口圏内まで広がっています。

eラーニングは、実務者がそれぞれの都合に合わせて、いつでも、どこでも、がん登録について学べる環境を整えていますので、がん登録従事者のスキルアップ等につながればと期待しています。こちらも県内外問わず受講可能ですので、興味が

ある方は下記QRコードよりアクセスしてみてください。

研究活動については、我々行政の担当者と大学で毎年テーマを決めて分析を行っています。今年の学術集会もセッションでの発表やポスター発表に参加しましたが、その中のひとつである、「データ分析業務の効率化」にて私も話をさせていただきました。私は平成31年4月から現在の部署に配属となったばかりのため、上記にかかるツール開発当時から携わっていませんでしたが、ポスター発表を機に過去の資料を見返して勉強したり、実際に学術集会に参加して他の方の講演を聞いたりすることで、データ分析の重要性を再認識しました。また、これから行政としてどのようなことをしていくべきか、どのようなアイデア、アプローチがあるのかということをより明確にすることが出来たのではないかと思います。

私は、医療関係の職場で働いたことも医療について教育機関で勉強したこともないので、専門的な話になると現場で働かれている方々には及びません。そこに関しては多くの都道府県の行政職員も同じだと思います。だからこそ、医療従事者として働かれている方々と積極的にコミュニケーションを取り、不足している知識、経験を補うことが不可欠だと感じています。そうすることで、行政だけでは出来ないことも出来るようになると考えており、これからも県内外問わず多くの医療機関で働かれている方々からご意見を頂きながら業務を進めていきたいと思っています。そのため、医療従事者の方が多数参加され、日々の業務についての発表をされている学術集会はとても有意義な機会だと感じました。また来年度もぜひ参加させていただきたいと思っています。

佐賀県がん登録支援体制

がん登録に関わるデータから佐賀県の情報をみきわめ、知る、触れる



集める実務者から使える、活かせる実務者へ

学術集會に参加して

多田 京子

岡山済生会総合病院



令和元年6月19日～21日道民活動センターかでの2.7において日本がん登録協議会第28回学術集會が開催されました。院内がん登録の実務者として、他院の分析を参考にさせていただきと初めて参加しました。発表を聞きまず驚いたのは、多くの先生方が院内がん登録を利用した研究に取り組まれていることでした。実務者においても、数多くの興味深い発表がされており、そのなかでも、当院同様に入外分離を行った施設の入外を通した院内がん登録データの一体化作業については、今後の業務効率化につながる内容でした。また、子宮頸がんの死亡率分析による県の健診政策への提言などは、今後の分析に大変参考となりました。当院が発表した、大腸がん・胃がん手術のステージ別医療費については、岡山県の参加者より『ステージが高くなるにつれて医療費が増加することは想像できたが、具体的な金額が示せれば、健診受診を促す材料となる。がんの早期発見や早期治療ができれば、医療費が削減でき、県の高額医療負担の減少につながられる』とのご意見をいただき、今後の分析テーマにつなげることができました。

学会2日目の夜には、岡山県からの参加者で北海道の幸を囲みながら、がん登録業務での悩みや問題点、今後のデータ活用について岡山県のがん登録部会として何ができるかなど熱く意見を交わし、楽しい時間を過ごすことができました。

この学会は、先生方の専門的な研究から、実務者の身近な分析まで幅広い内容となっていました。この学会が、院内がん登録実務者同士刺激を与えあう場となり、切磋琢磨につながれば、『院内がん登録からできること』は広がっていきます。質の高い登録に努めながら、今回得た情報を元に『何を目的にどうすべきか』を考えながら業務に取り組んでいきたいと思っています。

藤本伊三郎賞を受賞して

碓井 喜明

愛知県立がんセンター



この度は荣誉ある藤本伊三郎賞を受賞させていただき、誠にありがとうございます。私は2018年より愛知県がんセンターにてがん疫学の研究に取り組んでおります。このような早い時期に受賞となりましたのは、ひとえにみなさまのご指導を賜りましたお陰と存じます。心より感謝申し上げます。

この度の受賞の対象となりましたのは、2019年6月にカナダのバンクーバーにて開催された国際がん登録学会の口頭発表である「Impact of novel agents on multiple myeloma: trends of incidence and mortality in Japan」という研究です。多発性骨髄腫(骨髄腫)治療の新規薬剤が2000年代に多く開発され高齢者にも様々な治療の選択肢が広がり、生存率の改善も多く報告されています。今回の研究では新規薬剤導入前後の期間(1995～2015年)の骨髄腫の全国の年齢調整死亡率・年齢階級別死亡率、13府県(宮城県、山形県、千葉県、神奈川県、新潟県、福井県、愛知県、滋賀県、大阪府、鳥取県、山口県、長崎県、熊本県)における年齢調整罹患率・年齢階級別罹患率を算出しJoinpoint回帰分析により経年変化を評価しました。年齢調整罹患率は有意に上昇しているにも関わらず、年齢調整死亡率は新規薬剤の導入の時期より有意な減少を認めました。年齢階級別の解析では、特に従来の化学療法からの恩恵を受けられなかった70歳代の高齢者において死亡率の減少の傾向が顕著でした。死亡率および罹患率の推移の評価は、治療の進歩などのがん対策の適切な評価につながるができます。がん対策の立案・評価に貢献できるよう日々精進して参りたいと思います。

最後になりますが、各都道府県がん登録関係者の方々および日本がん登録協議会関係者の方々に感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



刊行物の販売について

JACRでは、『がん登録の手引き改訂第6版』を1冊税込1000円にて販売しております。ご購入をご希望の方は、右記QRより注文票をダウンロード頂きFAXまたはメール添付にてJACR事務局までお送りください。 ※送料のご負担をお願いしております。

3冊まで

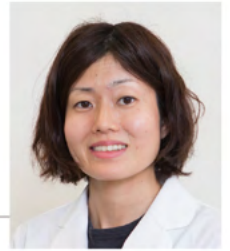
レターパックライトにて発送。

4冊～5冊まで

レターパックプラスにて発送。



藤本伊三郎賞を受賞して



中田 佳世 JACR専門委員

大阪国際がんセンター

この度は、栄誉ある藤本伊三郎賞(令和元年度)をいただき、誠にありがとうございます。私は、2013年に大阪国際がんセンターがん対策センターに赴任し、大阪府がん登録のデータづくりから分析まで携わらせていただいております。この度、大先輩である、藤本伊三郎先生の名を冠した賞をいただけること、大変光栄に思っております。

今回受賞対象となりましたのは、2019年6月にVancouverで開催されました、第41回国際がん登録協議会学術集会の口演発表「Trend in survival from leukemia in children, adolescents and young adults in Osaka, Japan: is the age-related gap narrowing?」です。小児(0-14歳)とAYA世代(15-39歳)では、白血病の生存率の格差が存在していることに着目し、大阪府がん登録より1975-2011年診断の小児・AYA世代の白血病5159例を

抽出し、白血病の種類別の5年実測生存率の推移をJoinpoint解析しました。急性リンパ性白血病の5年生存率は、小児では、1975年(28%)から1994年(84%)まで急速に改善し(年平均改善率2.9%)、その後頭打ちになっており、AYA世代では、1975年(4%)から2003年(49%)まで緩やかに改善し、その後2011年(71%)にかけて急速に改善し(改善率4.1%)、小児との格差も縮小していました。生存率改善の変化点は、小児の白血病に対する治療プロトコル開発の時期、AYA世代に対する小児型プロトコル導入の時期と一致しており、臨床研究での治療改善の効果が住民レベルで得られていることを確認できました。

最後になりますが、ご指導いただきました諸先生方、がん登録に関わるスタッフ、日本がん登録全国協議会の皆様に深謝申し上げます。

私たちの活動にご協力ください

賛助会員(個人・団体)を随時募集しています

賛助会員

個人…年間 3,000円
団体1口…年間 50,000円
(1口以上)

○寄付金も受け付けています

<https://jacr.secure.force.com/>

○入会のお申込みや寄付等のお問い合わせは
ウェブサイトの「お問合せ」よりお知らせください

<http://www.jacr.info/>

主な事業内容

がん登録に関する学術集会、セミナー等の開催
がん登録に関する様々な情報の提供
がん統計、がん登録に関する調査や研究の実施
国際がん登録協議会(IACR)への参加・協力
がん登録に携わる人材の育成やサポート
がん登録室の安全管理措置に関する活動
がん登録の広報媒体、冊子、教材、資料等の発行

第29回日本がん登録協議会学術集会のご案内



大木 いずみ JACR副理事長

栃木県立がんセンター

2020年6月4日(木)～6日(土)の期間、日本がん登録協議会第29回学術集会を栃木県宇都宮市で開催します。

がん登録は、1950年代から地域がん登録として先進的な地域で行われていましたが、近年がん診療連携拠点病院を中心に院内がん登録が整備され、2013年にはがん登録等の推進に関する法律が成立し、2016年診断症例から全国がん登録が開始されました。

2016年1月から12月の罹患症例は2019年1月に速報値として、2019年10月には報告書が全国がん登録 罹患数・率報告として公表されました。

枠組みやシステムはようやくできあがりしましたが、これからはがん登録の仕事に携わる人がこの仕組みを維持・向上し、社会に還元していかなければなりません。また、今まではデータを収集することに力を注いできましたが、これからは蓄えたデータをどのようにがん対策や医療に活かしていくかも鍵となります。

がん登録は、がんの情報を収集・整理し、分析することによって科学的にがん対策・がん医療を実行・評価するもので、

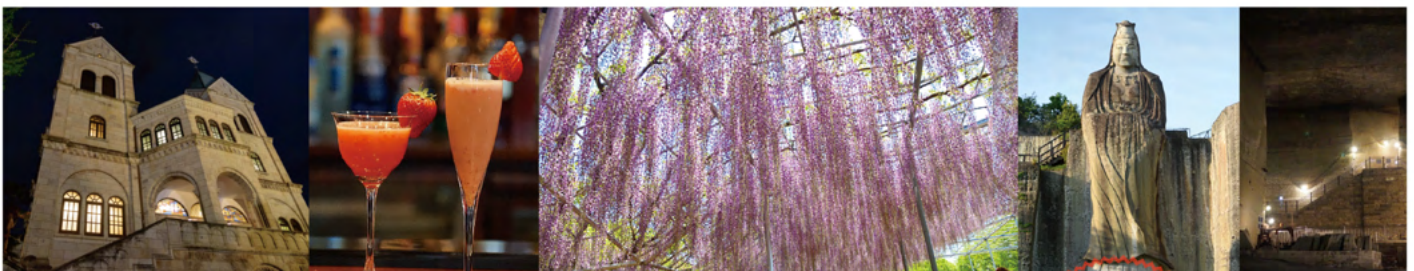
この学術集会はがん登録に係るすべての方の資質向上や情報共有のために開催したいと思います。

テーマは、「がん登録からがん対策への期待」とし、がん対策を立案実施する都道府県の保健医療行政担当者、また行政との連携をとりながら専門的にがん登録を実施している各都道府県がん登録室の方々、正確な情報源としてのデータを提出くださる医療機関や院内がん登録の関係者、データを研究として解析する研究者、がん登録からの情報を受け取り考察・活用するがん医療に携わる医療関係者や患者の方々を含め、一人でも多くの人に参加いただけますようお待ちしております。

1日目(6月4日)は研修会を行います。2日目・3日目(6月5・6日)は基調講演やシンポジウム、セッションなどを企画しています。ちなみに情報交換会は2日目の夜に開く予定です。

栃木県は東京からのアクセスがよく、少し足を伸ばすと世界遺産の日光東照宮や那須高原のほか、温泉もたくさんあります。ぜひ学術集会へ御参加いただくとともに栃木県の魅力を満喫してください。

詳細はホームページで随時更新します。



栃木県がん登録室のメンバー

たくさんのご来場
お待ちしております



→ 第29回学術集会公式サイト

<http://jacr2020.umin.jp/index.php>





日本がん登録協議会第29回学術集会 in 栃木 ～がん登録からがん対策への期待～

会期 2020年6月4日(木)～6日(土)

会場 栃木県総合文化センター

会長 大木 いずみ (地方独立行政法人栃木県立がんセンター がん予防情報相談部長)

URL: <http://jacr2020.umin.jp/>

事前参加登録受付期間: 2020年1月14日(火)～4月7日(火)予定

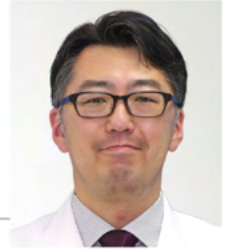
演題募集期間: 2020年1月14日(火)～3月31日(火)予定

学術集会会場への交通アクセス案内

- 東北新幹線・JR宇都宮線 JR宇都宮駅から会場まで (東京駅から東北新幹線でJR宇都宮駅までの所要時間約1時間、東北本線の場合は東京駅からJR宇都宮駅までの所要時間約2時間)
 - ・JR宇都宮駅(西口)からバスで「県庁前」下車 徒歩で約3分
 - ・JR宇都宮駅(西口)からタクシーで約5分(約1,600m)
- 東武宇都宮線 東武宇都宮駅から会場まで 徒歩で約10分(約700m)
- 羽田空港からJR宇都宮駅まで
 - 電車・モノレール(羽田空港からJR宇都宮駅までの所要時間は新幹線利用で約2時間)
 - ・羽田空港(東京モノレール)→浜松町(山手/京浜東北線)→東京(東北新幹線)→JR宇都宮駅
 - ・羽田空港(京急線)→品川(山手線等)→東京(東北新幹線)→JR宇都宮駅
- 空港バス(マロニエ号)(毎日8往復 所要時間約3時間30分)
 - ・羽田空港→JR宇都宮駅(西口)

*到着時刻は予定です。道路状況などにより延着する場合がありますのでお時間に余裕をもってご利用ください。

第78回日本公衆衛生学会総会シンポジウム報告



松坂 方士 JACR理事

弘前大学医学部附属病院

令和元年10月24日、第78回日本公衆衛生学会総会(高知市)でシンポジウム「全国がん登録から考える日本のがんの現状と対策」が開催されました。このシンポジウムはJACR教育研修委員長・大木いずみ先生を中心に企画され、大木先生とJACR理事長・猿木信裕先生の共同座長で進行されました。

第1席は国立がん研究センター・松田智大先生から、「全国がん登録の結果と展望」と題して、全国がん登録データから得られる指標を、今後どのようにがん対策に利用できるかについてご紹介がありました。全国がん登録からは罹患率による一次予防のだけでなく、進展度による二次予防の評価や、診断・治療病院の集計による拠点病院への診療集約の把握が可能になります。このような取り組みから、都道府県はより詳細ながん対策の評価と改善が望めます。質疑応答では、そのようなデータ分析を行う人材の養成について議論がありました。



シンポジウムのようす

第2席は弘前大学病院・松坂が、「青森県からの報告 ～がん死亡率が最も高い県の現状～」と題して、青森県ではこれまでどのように地域がん登録データを利用してがん対策を進めてきたかについて紹介しました。青森県では地域がん登録から得られた罹患率や進展度によるがん対策の評価の他、市町村のがん検診台帳との照合によるがん検診の精度管理(運用状況のチェック)を実施しています。猿木座長から、この照合作業に関する個人情報の保護について質問があり、がん検診の精度管理に係る作業は個人情報保護法・条例の適用が除外される旨をお答えしました。

第3席は神奈川県立がんセンター・片山佳代子先生が「神奈川県からの報告 ～都市型地域のがんの現状～」と題して、

神奈川県がん登録データの解析結果やデータ利用状況についてご紹介がありました。神奈川県内には横浜市をはじめとした都市部と県西部の過疎化地域が存在しており、日本の縮図ともいえる背景を有しています。団塊世代の高齢化による乳がん罹患数の推移予測や、地理情報システム(GIS, Geographic Information System)を利用した乳がん罹患集積地の検討など、神奈川県立がんセンターでの先進的なデータ解析をご報告いただきました。また、JACRのJ-CIP事業と共同で進められているがん患者さんへの情報発信についてもご紹介いただき、がん登録データの守備範囲の広さを実感させられる思いがしました。

最後に、国立台湾大学(台湾がん登録)・Chun Ju Chiang 先生から「Application of National Cancer Registry Data in Taiwan(台湾がん登録のがん対策への活用)」と題して、日本よりも早く登録精度が向上し、がん対策へのデータ利用が盛んな台湾がん登録の活動をご紹介いただきました。台湾では、届出病院への部位別ステージ別生存率のフィードバック、B型肝炎ウイルスワクチン事業のがん登録からの評価などが行われており、今後大幅な精度向上が見込まれている日本のがん登録が参考にすべき内容が多くありました。参加者からは台湾がん登録の実務や国レベルで運用を担当している人材などについて質問があり、最も議論が盛り上がった発表でした。



参加者と記念撮影

シンポジウムとして、JACRからがん登録に関する充実した内容を発信する機会をお与えいただいた今学術集会の学会長である安田誠史先生(高知大学教授、JACR理事)に心からお礼申し上げます。

院内がん登録 データ統計分析ソフト

CanStat-R Next

2016 年度 HosCanR Next 対応版

「院内がん登録データの活用ができます」

院内がん登録データを活用して病院独自の分析ができるソフトです。

HosCanR は、もちろん他のシステムを使用している施設様でも国立がんセンター提出フォーマットの CSV データであれば、独自の分析ができるソフトです。



HosCanR Plus データの統計解析も可能

相対生存率はもちろん、Kaplan-Meier 法・生命保険数理法などの累積生存率計算とグラフ表示が可能なソフトです。

お問合せ

スキルインフォメーションズ株式会社

東京事業所
〒110-0005 東京都台東区上野 3-14-1
UENO CUBE EXECUTIVE ビル 6 階
Tel 03-5875-4199 / Fax 03-5875-8050

大阪本社
〒533-0033 大阪市東淀川区東中島 1-17-26
スキルインフォメーションズビル
Tel 06-6320-4199 / Fax 06-6320-4198

web www.sic-cancer.com

mail healthcare@sic-net.co.jp

JACR×全国がん患者団体連合会

～がん登録関係者とがん患者のコラボレーション～



例えば、ローカル部門では、「がん患者らと協同で制作した、

がん患者が本当に欲しいがん情報を発信するサイト」を提供しています。

現在、青森、群馬、神奈川、大阪、愛媛版が公開され、今後他都道府県に普及させていきます。

支援が必要な都道府県はJACRに是非ご相談ください！



J-CIP公式サイト <http://jacr.info/j-cip/>

連載

病理医の
つぶやき

がんの診断に欠かせない病理診断を病理医の先生が解説

第四回 / 病理医のひとり言

東京女子医科大学・病理診断科 教授

長嶋 洋治



病理医はじめて35年になる。後進に教えることが、時に自分が指導者から教わった受け売りであることに気が付く。代表的な3件を挙げる。

①病理解剖所見は予想しろ。肉眼が勝負。: 直接の指導者であった先生からの教え。病理解剖は臨床情報や、ある臓器で得られた所見をもとに他臓器、組織で予想される所見を探すこと。漠然と“何があるかなあ?”ではいけないといわれた。僧帽弁狭窄症の症例で、塞栓のため腎に梗塞があった。その先生は脾もよく見るように言われ、小さな梗塞を見つけることができた時は驚くとともに、うれしかった。今は、教えてくださった先生の言葉通り、病理解剖肉眼カンファランスでは“先入観を持って”臓器を見、必要なところを精選して組織標本を切り出すよう指導している。できる限り肉眼で所見をとり、病態を推察する。肉眼カンファランスの前にこっそり標本を作り、“実は〇〇でした”などというのはルール違反である。当方の肉眼所見と異なっていたときは、内心穏やかでないのは言うまでもない。

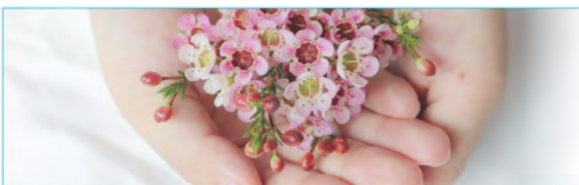
②術中迅速診断標本の見方。顕微鏡は“いいもの”を使わない。: 教室の非常勤であった先生から術中迅速診断の見方について教わった。まず術中迅速診断標本を見るにあたっては、解像度のいい顕微鏡を使わないこと。あまりにもよく見えすぎてリンパ節内の組織球すら癌細胞に見えてしまう。同じ理由でいたずらに倍率を上げてみないこと。すべてが異型性を持って見えてしまう。そして、リンパ節検体で“転移がない”と思っても、癌細胞がトラップされやすい被膜直下を最後に丁寧に(倍率を上げずに)一周すること。ひとしきり語られたその先生はけだるげに天井を仰いで“まあ、オレもあんまりわかっちゃいねえけどな”と

つぶやくのが常であった。先日、研修医に同様のことを語り、意識しないうちに、“まあ、僕もまだまだだけどな”と言っていた。頭の中で、先生の声とハモっていたことに驚いた。

③電子顕微鏡関連2題。“だるまさんが転んだよ”とレタリングの使い方。: 師事した教授からの教え。大学院生の時に電子顕微鏡の自動露出計が壊れた。機種は古く、修理はかなわないとのことで、手作業で露出時間3秒を調節しなくてはならなくなった。教授曰く。“だるまさんが転んだよはおよそ1秒、これをもって計時せよ”と。爾来、私は電顕室、漆黒の闇の中、“だるまさんが転んだよ”を3回つぶやくアヤシイ人となった。雷雨に遭った時にはこれを応用する。稲光から雷鳴までの時間を“だるまさんが転んだよ”何回言えるかで時間を計り、音速“331+0.6t” m/秒(tは摂氏温度)をかけ、雷までの距離を推定する。

電子顕微鏡がらみで教授の教え、覚えていることもうひとつ。誰がみても核であることが自明なのにNなどと大きくレタリングされている写真を見たら、それはキズ隠し、ゴミ隠し、孔隠しだと考えてよいということ。“ここを出したい”というところに限って、キズ、ゴミ、孔が付いて回るのが超薄切薄片である。そして、“ここを出したい”と思った付近に上記の招かれざる3点セットがあれば、レタリングで隠す手があることを知った。教科書、アトラスなどを見て、不自然に大きいレタリング、いまさらながらのレタリングはそんなものだということだ。

思い出せば芽づる式に出てきそうな、数々の教えがある。“日は暮れかけて途遠し(まだまだ暮れるわけにはいかん)”の感があるが、玉石混交、後進にはいろいろ伝えたい、“玉”だけが貴いわけではない。そう思う今日この頃である。

常時
受付中

当会への寄付

活動を支援して下さる方を募集します

JACR NEWS LETTER「モモコさんと紫本」の LINEスタンプができました!!

全40種類: 120円

ダウンロード方法



右のQRコードを読み取って、
LINEスタンプショップにアクセス頂くか
LINEスタンプショップから
「モモコさんと紫本」と検索して下さい♪



LINEスタンプの 収益について

LINEスタンプの収益は
日本がん登録協議会の
非営利事業の寄付金として
使用させていただきます。



日本がん登録協議会とは？

がん登録によるがん罹患、死亡、生存率等の情報を提供するとともに、公開セミナーや学術セミナー、調査及び研究、がん登録に関与する人材の育成等を行い、地方公共団体の実施するがん登録事業の充実・発展を支援する事業を通して、国民の保健、医療、療養の増進と、わが国のがん対策の推進に寄与することを目的として活動しています。

JACR NEWS LETTERとは？

認定特定非営利活動法人日本がん登録協議会が年2回(7月・2月)に発行している刊行物です。

日本がん登録協議会が行ったイベント内容の報告記事や、全国のがん登録室の情報など、がん登録に関する知見を広める会報として会員の皆様から好評を頂いています。

※バックナンバーは下記サイトに掲載されています。

<http://www.jacr.info/publication/publication3.html>

Shizuoka

静岡県

静岡県健康福祉部医療健康局疾病対策課



生きがいと健康づくりイメージキャラクター「ちゃっぴー」©静岡県

静岡県の概要

静岡県は日本のほぼ中央に位置し、太平洋に面して東西155キロメートル、南北118キロメートルの距離、7,777.43平方キロメートルの面積を有しています。また、遠州灘、駿河湾、相模灘に沿った約500キロメートルの海岸線を南側に、北側は富士山など3000メートル級の山々からなる北部山岳地帯が、東西に長い地形を囲んでいます。

静岡県の人口は約364万人（令和元年11月推計人口）で、23市12町の35市町（2政令指定都市含む）で構成されています。

県内には8つの二次医療圏があり、国指定の都道府県がん診療連携拠点病院が1か所、地域がん診療連携拠点病院が9か所、地域がん診療病院が2か所、小児がん拠点病院が1か所整備され、また県指定の静岡県地域がん診療連携推進病院が8か所、その他がん相談支援センター設置病院が2か所整備されています。

静岡県のがん登録事業

静岡県では、平成23年8月から地域がん登録事業を開始しました。県庁健康福祉部疾病対策課の執務室内にがん登録室を併設し、登録、分析及び管理部門について県が直接実施しています。全国がん登録の開始後は登録室責任者1名、作業責任者1名、作業実務者2名の計4名体制で業務にあたっています。

またがん登録データの利用や外部への集計結果の公表等について審議するため、定期的にごん登録推進委員会を開催しており、データの利活用に努めています。



静岡県がん登録室のメンバー

現状

地域がん登録時代は40か所前後の医療機関から、年間30,000件程度の症例の届出がありました。また届出数のおよそ85%は、国または県指定のがん診療拠点病院等が占めています。

全国がん登録の開始に際して、医療機関及びがん登録室の双方で円滑な事務の移行ができるよう、平成27年度に県内各地で医療機関向け全国がん登録制度についての説明会の開催や、実務担当者向けデータ入力等についての基礎的研修会を開催しました。その結果、現在まで大きなトラブルはなく、順調に業務が進んでおります。

また、本県のがん登録の精度は年々向上しており、平成25年から継続して精度基準Aを達成しています。なお、平成27年症例の登録精度は、DCN7.4%、DCO4.9%、IM比2.4でした。

平成28年度には、がん登録データの精度向上を図るため、県内医療機関の実務担当者を対象にスキルアップ研修会を開催し、データ入力に関して、より詳細な内容の理解を深めることにつながりました。

最後に

静岡県のがん登録事業は、まだ歴史が浅いため、今後もノウハウの蓄積などを通常業務と並行して行い、引き続き精度の高いがん情報の収集・整備に取り組み、がん対策を推進していきます。皆様の御指導・御鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い致します。



©静岡県疾病対策課

登録データの利活用が始まった和歌山県がん登録室

和歌山県がん登録室は、和歌山県より和歌山県立医科大学へ委託され、2011年から和歌山県立医科大学附属病院内腫瘍センターがん登録室でがん登録業務を開始しました。登録室開始以前から院内がん登録の推進を県と連携して行っていたため、事業開始がスムーズに行えたと考えています。とは言え、時には片道3時間以上掛けて県内の医療機関に出張採録することもありました。現在では全国がん登録だけではなく、院内がん登録に関する県内医療機関からの問合せについても対応を行っております。

登録室が設置されている和歌山県立医科大学附属病院は都道府県がん診療連携拠点でもあるため、登録室担当者は附属病院の院内がん登録担当者と連携・協力している点が特徴です。附属病院院内がん登録担当とがん登録室職員が連携して院内がん登録実務者研修会・全国がん登録実務者研修会の開催や、依頼のあった医療機関への訪問研修を行っています。

地域がん登録から全国がん登録となり届出が義務化されましたが、多くの医療機関にとっては年に1度の届出作業です。全部覚えろというものなかなか難しい部分もあります。全国がん登録実務者研修会では前年の届出を受け付けた際に疑義照会を行うことの多かった事例の紹介や、全国がん登録の届出を初めて行う新任職員向けの研修会資料兼マニュアルの作成・配布等を行っております。院内がん登録実務者研修会や情報交換会においては最近若手の実務者が増えた事を実感しています。

和歌山県がん登録室



和歌山県がん登録室のメンバー

話は変わりますが、1年間に和歌山県でがんにかかると推定される人はおよそ8,200人、亡くなる人は約3,300人です。和歌山県は過去に75歳未満年齢調整死亡率がワースト2位になるなど、がんで亡くなる割合の高い県でしたが、近年では10位前後と改善傾向にあります。また、男性の罹患率・死亡率が全国平均に比べて高い傾向があります。

現在和歌山県では第3次和歌山県がん対策推進計画にがんの75歳未満年齢調整別死亡率を対2015年度比で15%減少させるという具体的な数値目標を設定しています。併せて「科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実」「患者本位のがん医療の実現」「尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築」を個別分野項目の目標として掲げています。

「科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実」の方法の一つとしてがん検診の精度を高めるため、国立がん研究センターや和歌山市と協力し、検診受診者データとがん登録データの照合を行っています。科学的根拠に基づくがん検診の受診はがんの早期発見・早期治療につながり、また、がんによる死亡者を減少させるには、がん検診の受診率の向上と精度管理が重要です。検診事業について課題を探り、検診体制の充実につながればと考えています。

がん対策は精度の高い正確なデータに基づいて適切に行う必要があります。和歌山県がん登録室が、がん対策の効果的な推進を図れるよう今後も行政担当者と連携しながら業務を進めていきたいと思っております。

認定特定非営利活動法人 日本がん登録協議会

JACR事務局だより

認定特定非営利活動法人 日本がん登録協議会事務局
濱松 若葉

会員のご入会について

2019年7月1日以降、沢山の皆様にJACRにご入会を頂きました。
ご入会者数を会員種別ごとにご報告申し上げます。

・個人正会員

新たに、8名の方にご入会頂きました。

・団体賛助会員

新たに、一般社団法人群馬県病院協会にご入会を
頂きました。

・団体正会員（病院等関連団体）

新たに、5団体にご入会頂きました。

ご入会頂きました皆様に、この場をお借りして、感謝申し上げます。



日本公衆衛生学会にJACR紹介ブース出展をしました

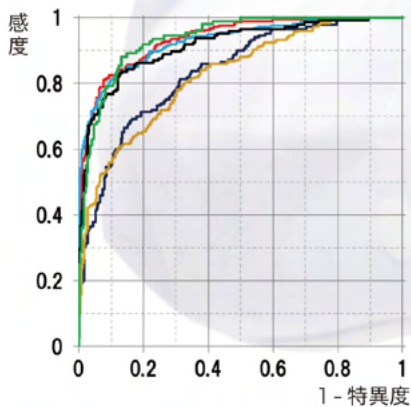
第78回日本公衆衛生学会にてJACR紹介ブース出展を致しました。

150名を超える皆様ブースにお立ち寄りいただき、誠にありがとうございました!



あなたをがんで 失いたくない

微量元素判別によるがんのROC曲線



がん検診受診率を上げるためには、
心と身体の負担が少なく、短時間、少額であることだとレナテックは考えます。
それを実現するために、私達は日々研究努力を続けます。



Metallo-balance <https://metallo-balance.net>

がんと闘う患者さん
がん患者さんを支えるご家族の
QOLを高めるお手伝いをします

光の力で除菌・脱臭

QOL-FAN 空気清浄^{plus}



QUALITY OF LIFE

～快適な空間を届けたい～
それがレナテックの想いです。
「生活の質」の向上をQOL-FANで叶えます。



レナレント <https://renarent.net>



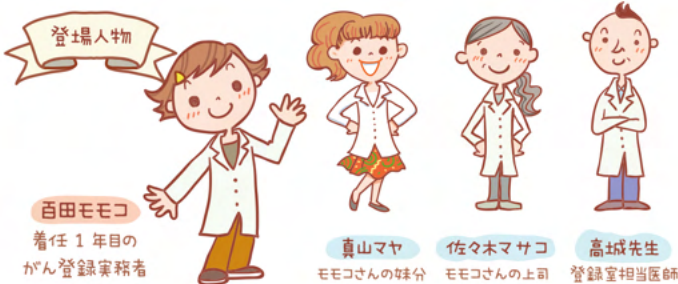
<https://renatech.net>

モモコさんと紫本

画：いのうえつぐみ

第32話 去リ行く人編

第31話 人気者編



編集後記

北海道で開催された日本がん登録全国協議会・第28回学術集会は盛会のうちを終了することができました。本号では学術集會に参加された院内がん登録関係者や都道府県職員に施設での活用を含めたご報告を頂きました。全国がん登録のデータ提供が始まり、各病院への予後情報の提供や都道府県のがん対策立案のための資料として活用が始まっているのではないのでしょうか。利用者側のデータ安全管理等を含め、がん登録に携わる方々へ役立つ事例を紹介できれば幸いです。ご寄稿頂いた皆様ありがとうございました。(阪口昌彦 田淵健)

私たちは日本がん登録協議会を支援しています

がん登録の充実と発展を願い当協議会の活動に賛同、ご支援いただいている賛助会員(団体・個人)の皆様です。



【団体】(公社)日本医師会、日本生命保険相互会社、東京海上日動あんしん生命保険(株)、東京海上日動火災保険(株)、富士通(株)【4口】、アフラック生命保険(株)【3口】、(公社)日本歯科医師会、(株)ヤクルト本社、味の素(株)、(株)レナテック、SOMPOひまわり生命保険(株)、久光製薬(株)、富士フィルムメディカル(株)、三井住友海上あいおい生命保険(株)、(一社)全日本コーヒー協会【2口】、(公財)日本対がん協会、アストラゼネカ(株)、富士レビオ(株)、伏見製薬(株)、大鵬薬品工業(株)、中外製薬(株)、第一三共(株)、ノバルティスファーマ(株)、サイニクス(株)、マニユライフ生命保険(株)、MSD(株)(株)キャンサーキャン、メルクバイオファーマ(株)、ファイザー(株)、武田薬品工業(株)、(一社)群馬県病院協会【1口】

【個人賛助会員】田中英夫様、佐々木毅様、岡本直幸様、戸井田睦美様(他6名)(順不同)